



火入れ後の草地に咲くサクラソウ

4.重井薬用植物園とサクラソウ

重井薬用植物園は、倉敷市にある医療法人 創和会の運営する民間施設です。“薬用”植物園と名付けられていますが、いわゆる薬草園ではなく、人は豊かな自然の中でこそ、健康的な生活を送れるという理念のもと、県内に自生する野生植物を収集・保護・増殖するなど、生物多様性をまもるための活動を1964年の開園以来行っている。植物分野では岡山県で最も歴史のある自然保護施設です。1991年に岡山県が「岡山県自然保護センター」を整備した際には、当時すでに県内では野生絶滅の状態であったり、絶滅に瀕していたりしていた多くの植物を寄贈しました。その中には、開発により自生地が消滅してしまった産地のサクラソウも含まれていました。



重井薬用植物園園内風景

現在は、サクラソウを含めた希少植物の自生地外での保護を継続すると同時に、蒜山地域のサクラソウ保全活動の支援や保全活動の活発でない地域のサクラソウ自生地の調査や保全への関係各所への働きかけを行うなど、岡山県内のサクラソウ保護活動の後方支援ともいえる活動を行っています。

参考 URL

重井薬用植物園 <http://www.shigei.or.jp/herbgarden/>
 岡山県自然保護センター <http://homepage3.nifty.com/OPNACC/>
 津黒いきものふれあいの里 <http://plus.harenet.ne.jp/~tsuguro/>
 岡山県 環境文化部 自然環境課 http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=31

田島ケ原のいきもの(No.4)

—フキ(キク科)—

3月末の田島ケ原は、草焼きをした名残の灰に埋り、若草の緑も遠目にくすんで見えます。暖かな日、小さな春を求めて訪れた人々が、アマナ・ホトケノザ・オオイヌノフグリ・サクラソウの咲き出した花をいくつか見つけては、喜び合っていたりします。そして、このフキノトウを見つけた時です。

フキノトウは、早春にフキの地下茎から地上に出たばかりの花茎のことで、食用にすると、ほろ苦く、それを春の味と感じている愛好者も多いようです。

フキは雌雄異株なので、雄株のフキノトウと雌株のフキノトウがありますが、花が終わると20cm以上にも伸びる方が雌株です。雄株のフキノトウは、黄白色をした両性花の集まりですが実を付けません。雌株のフキノトウは、白い雌性花と両性花の集まりで、雌性花にだけ実が付きまます。写真は雄株のものです。



(さいたま市文化財調査専門員 磯田 洋二)

田島ケ原サクラソウ自生地の保存管理計画策定委員会が始動しています

近年の田島ケ原の環境の変化などに対応して、今後どのように自生地を管理していくべきなのか、有識者や田島ケ原サクラソウ自生地に係わる行政の関係者などに検討していただく保存管理計画策定委員会を平成22年4月から開催しています。

平成24年度までに多岐にわたる項目を検討していただき、今後の管理の方向性を決定していただきます。



観測井戸の記録から分かること

さいたま市文化財調査専門員 磯田 洋二

田島ヶ原のサクラソウ群生地が、国の天然記念物に指定された大正9年当時、その場所は雨の降った翌日には、膝までもぐってしまうような湿地だったそうです。

そのような田島ヶ原も、現在では湿地を埋め立てたり水はけを良くして、人々が憩う「桜草公園」として整備され、その中にサクラソウ群生地は国の特別天然記念物として大切に保護されています。

ところがサクラソウ群生地のまわりは水はけの良い公園なので、サクラソウなどの湿地を好む植物の生育に必要な水は、雨水だけが頼りになってしまいました。

では、頼りにしている雨水だけでサクラソウ群生地は大丈夫なんでしょうか。サクラソウ群生地には三か所に観測井戸（写真）があって、ここの降雨量と地下水位を記録しています。この記録を調べることで、サクラソウ群生地が頼りにしている雨のことが分かるのです。

観測は1992年から行われていますが、どの年の記録も傾向が良く似ているので、2005年の記録を代表に取り上げて調べてみましょう。（右の上下二つのグラフ）

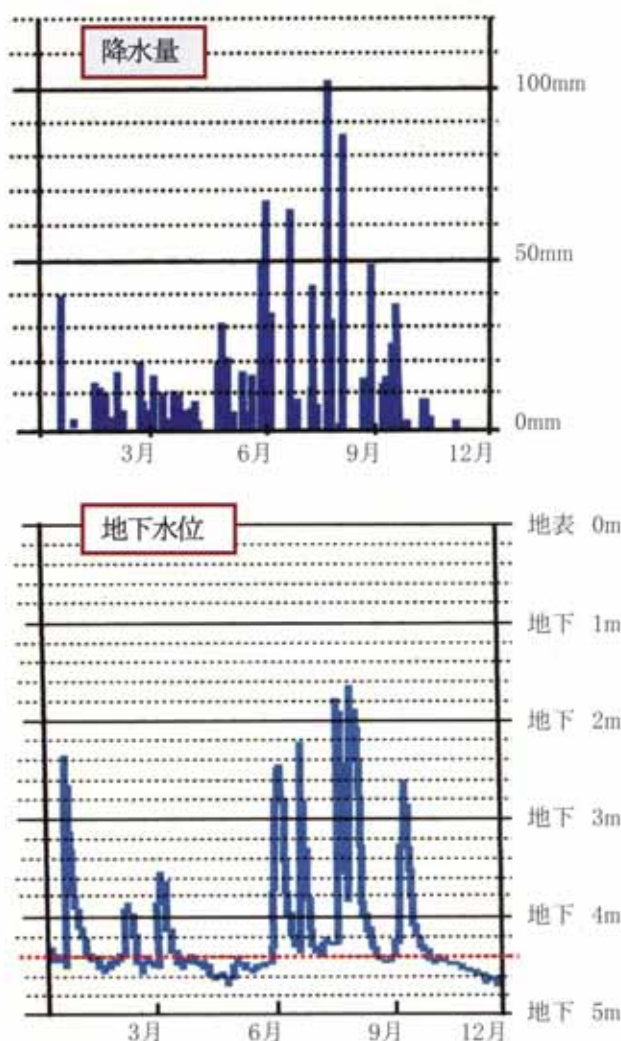
上のグラフは降水量を観測したもので、一日に降った雨量をmmの単位で表しています。下のグラフは地下水位を観測したもので、地下に溜まった水の水面を地表からの深さで表しています。

二つのグラフから、降水量が多い時は地下水位が上がり、降水量が少ない時は地下水位が下がって、降水量の変化に合わせて地下水位が同じように変化していることがわかります。また、降水量が0mmの時や少ない時に、地下水位は地下4.5m付近（赤の破線）にまで下がり、それより下がることのないので、地下4.5m付近から下には常に水が溜まっていることがわかります。

サクラソウ群生地は、荒木田と呼ばれる土で覆われています。ここの荒木田は1分間に100cm²あたりおよそ50mlもの水を通すため、降った雨は地表をぬらすと直ちに地中深くに浸みこんでしまい、地表付近には雨水が溜まるような湿地はできないのです。また、雨が降らなかったり少ない時には、地下水位が地下4.5m付近にまで下がってしまい、地表付近は地下水が届かなくなって、乾燥しやすくなるのです。そのため、晴天が続いたり降雨が少なかったりすると、湿地を好むサクラソウなどの生育に悪い影響が出るようになりました。

なお、サクラソウ群生地周辺が開発される前は、地下1.0m付近から下には常に水が溜まっていたことが分かっているので、湿地がなくなり乾燥するようになったのは、開発の影響によるものと考えられています。現在、このような水の問題をどのように解決したらよいか、その対策が研究されています。

観測井戸の記録（2005年）



田島ヶ原サクラソウ自生地に設置された観測井戸

特別天然記念物サクラソウ自生地の地下水位を観測するために、1990年に掘られた深さ12mの観測用の井戸です。